

小学校外国語科において自信をもって発表する児童 の育成

—振り返り活動を通じた自己調整学習—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（英語）

山本 有紗

本研究では、振り返り活動を通して児童が自ら学習を改善し、自信をもって発表できる児童を目指す児童像として、授業実践をした。小学校6年生の児童を対象に実践前後で自己調整学習や自己効力感、授業に対する不安に関する質問紙調査を実施した。調査結果を t 検定で分析した結果、不安の5項目について有意に減少していた。モデルの提示や全体での発表の前に周囲の他の人に発表することによって安心感が生まれたと考えられる。しかし、自己調整学習と自己効力感については有意な差が見られなかった。理由として、自信がもてない児童は自分に合った学び方を見つける中で成功体験を得ることができていなかったと考えられる。過去の成功体験を応用することで新しい内容に挑戦できる環境を整えることが必要であると考ええる。今後は、児童の内面的な変化のみならず、話す技能や学力の向上も目指し、さらに効果的な自己調整学習や振り返り活動を目指すことで、児童が自信をもって外国語学習に取り組むことができるように努める。